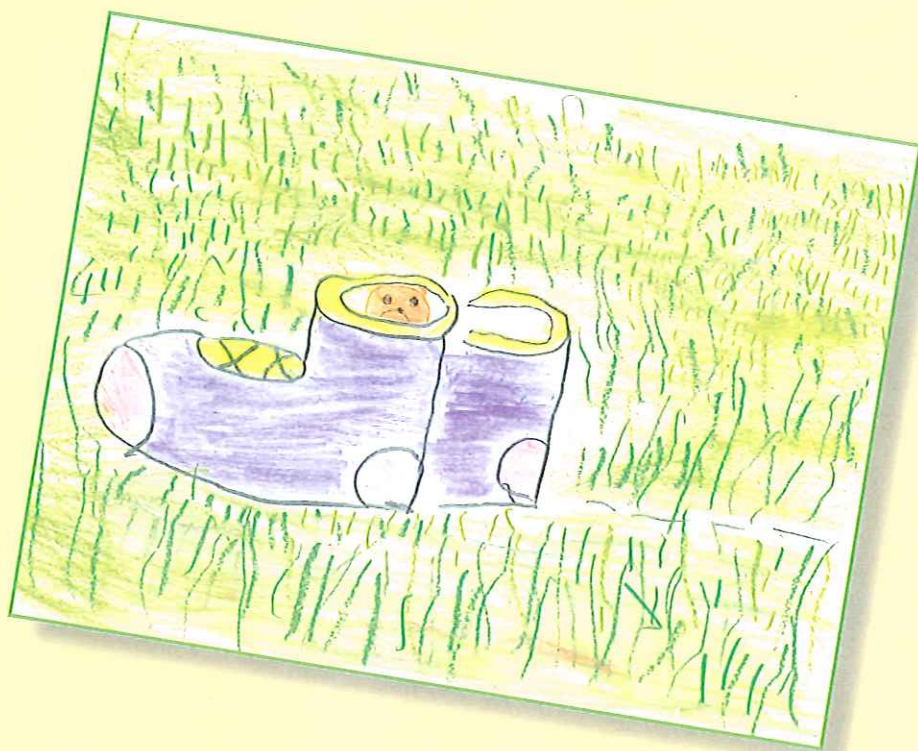


おもちゃ図書館がつなぐ  
心とこころ

# おもちゃの 図書館

育成ハンドブックNo.67

2009年6月発行





## この育成ハンドブックをお読みの皆さまへ

このハンドブックは、おもちゃ図書館のボランティアをされている方、またおもちゃ図書館活動に関心をお持ちの皆様にお読み頂きたく作成しております。

おもちゃ図書館活動が日本でボランティアとして広まってから現在に至るまでに、社会環境も大きく変化いたしました。今年の年間テーマとして～おもちゃ図書館でつなぐ心とところ～と致しましたのは、現代の社会の中で求められている活動が地域の中の、人々の絆、心のつながりではないかと言う事と、活動を続けている仲間の先輩から後輩へのつながり、仲間と仲間のつながりも大切であるということからです。

おもちゃ図書館の果たす役割は、社会の変化と共に変わらなくてはいけない部分と、変わってはいけない部分があります。変わってはいけないのは、ボランティア活動をする精神と、おもちゃ図書館の理念です。活動の内容は、それぞれの地域により、その時代により変化していくと思います。

この活動をつないでいくために、おもちゃ図書館活動の歴史、ボランティアに求められる知識や理念、現在の子供たちのおかれている状況、ボランティア活動の精神を学べる内容を、年間を通してお届けいたします。

ぜひ、活動の参考にされ、また、新しく参加される方々にもご覧いただけますようお願い致します。

## 目次

この育成ハンドブックをお読みの皆さまへ	2
おもちゃ図書館についてお話しします	
1. はじめに	3
2. おもちゃ図書館の歴史	3
3. イギリスで発展!	4
4. 日本にもおもちゃ図書館が誕生!	5
5. おもちゃ図書館の役割	7
6. おもちゃ図書館の活動のひろがり	10
7. おもちゃ図書館による障害児の家族・地域支援システムの構築	11
8. おもちゃの図書館全国連絡会と国際会議	11
9. おわりに	12
おもちゃ図書館 Q&A ～資金確保について～	13
トイ・ドクター リレートーク	
茂原おもちゃ図書館附属おもちゃの病院	14
本の紹介	15





# ～おもちゃ図書館についてお話しします～

峯島 紀子

## 1 はじめに

障害のある子ども達に豊かな遊びの場を提供して、その生活の質を高めるおもちゃ図書館活動は、ノーマライゼーションの理念の浸透とともに、「障害のある子とない子の交流の場」「ともに集い、遊びを通して子ども達の心にバリアフリーを育て広げる場」へと変化してきました。更に、遊びの機会に欠ける子ども、核家族で孤立する親子、育児不安を持つ母親とその子ども等、すべての子どもの幸せを願って、「孤立する人をなくす場」へと活動が変化してきています。

ボランティア活動のおもちゃ図書館には規制がありません。地域にニーズが見つかれば、それに応えるのがおもちゃ図書館なのです。

## 2 おもちゃ図書館の歴史

### 1) まずアメリカで

世界最初のおもちゃ図書館はアメリカで誕生しました。1935年の世界大恐慌時代、ロスアンゼルス南西部の10セントストアの店長が、8歳から10歳位の子どもたちが店のまわりをぶらついたり、おもちゃを盗んだりするのに気付いて地域の学校に報告したことをきっかけに、家が貧しいため子どもたちがおもちゃを買ってもらえないことを知った校長が、社会資源としてトイ・ローンのシステムを作っておもちゃの貸し出しを始めました。児童の健全育成のために始められたこのトイ・ローンシステムが、現在では世界初のおもちゃ図書館であると考えられています。



アメリカのトイローンはその後も継続し、1980年代に入ると次に述べる「レコテク」の動きが導入され、障害のある子どもの治療教育の概念を取り入れて、米国トイライブラリー協会が設立されました。

同種のものがドイツで1952年、デンマークで1959年、カナダで1972年に作られています。



## 2) スウェーデンやノルウェーでは？

1963年、スウェーデンの二人の障害児の母親、ユンカー（小児科医）とヴィレによって、現在のおもちゃ図書館の原型と言える活動が、「レコテク」という名称で始められました。スウェーデン語で「遊ぶもの＝おもちゃ」の“レコ”と、「コレクション」の“テク”から作られたこの名称は、障害のある子どものためのおもちゃ図書館を意味する外来語としてデンマーク・韓国等でそのまま使われています。実際には、世界最初のおもちゃ図書館は、米国のトイ・ローン方式でなく、障害のある子どものための活動として始められたスウェーデンのレコテクであると考えている人々も沢山います。

初めボランティアによって運営されていたスウェーデンのレコテクは、その活動が社会的に認められるようになって、治療教育を目的に公費で運営されるようになりました。

ノルウェーでも、一人のプレスクールの教師によってスウェーデンのレコテクをモデルに、1969年におもちゃ図書館が開設されました。4年間で利用者が600人にもなり、厚生省から助成を受けるようになりました。

## 3 イギリスで発展！

スウェーデンからヨーロッパ各地に広がった障害のある子どものためのおもちゃ図書館は、海を渡って英国にも伝えられました。英国で最初のおもちゃ図書館（トイ・ライブラリー）は、1967年、フレーベル教育の教師であったジル・ノリスによって、障害のある子ども達の親同士がおもちゃの貸し借りをする、という形で始められました。

1972年には英国トイライブラリー協会が設立されて、おもちゃ図書館の作り方・おもちゃ遊びの指導・情報収集と提供・運営方法や資金調達の指導など、活発な活動を行なってきましたが、1993年には、英国トイ・エンド・レジャーライブラリー協会と名称を変更しました。レジャーライブラリーというのは、トイライブラリーで成長した障害のある青年達にレジャー活動を提供する取り組みで、レジャー用品の貸し出し・ミュージックバンド・スポーツ・陶芸・旅行・社交など、障害のある青年達の余暇を充実させ、生活の質を高めるためのさまざまなレジャー活動





の拠点となるものです。

## 4 日本にもおもちゃ図書館が誕生！

### 1) まずレコテクが……

1975年、大阪で辻井正氏によって日本最初のトイライブラリーが開設されました。「てんかんの町」として知られる西ドイツのベートルで研修を積んだ辻井氏は、スウェーデンの「レコテク」をモデルに、「おもちゃによる療育レッスンの場」、すなわち「発達指導の場」としてトイライブラリーを開設しました。当時はまだ、障害児通園施設などの療育専門機関が地域になかったので、その後も数ヶ所で活動が始められましたが、治療的・教育的な目的のものでした。

### 2) ついにボランティア活動としてのおもちゃ図書館が……

ボランティアによるおもちゃ図書館第一号は、国際障害者年の1981年、東京三鷹市におもちゃコンサルタントの小林るつ子氏によって、主婦ボランティアの協力を得て誕生しました。

小林るつ子氏はデパートのおもちゃ売り場で、教え子のためにおもちゃを探していた養護学校（現在の特別支援学校）の先生とその子のお母さんの相談にのりました。そしておもちゃで楽しく遊ぶことが難しい子ども達の存在を知った小林氏は、当時イギリスで非常な発展をとげていたおもちゃ図書館の存在を知り、三鷹おもちゃ図書館を作ったのです。

障害のある子ども達がおもちゃで楽しく遊べるように、また障害のある子どもの親ごさん達が肩の力をぬき心を開いて語り合える場を提供したい、との願いをこめて誕生したおもちゃ図書館は、その後まるで燎原の野火のように全国各地に広がりました。

### 3) おもちゃの図書館全国連絡会がスタート

1983年（昭和58年）2月26日に、“おもちゃの図書館全国連絡会”の結成総会が開催され、小林るつ子氏を初代世話人代表として全国組織が発足しまし





れた療育の専門家が、親ごさんたちと一緒にボランティアとして役割を担う中で、おもちゃ図書館は全国各地に広がっていったのです。

第3の理由として、おもちゃ図書館活動を支援する団体や機関の存在があげられます。社会福祉法人全国社会福祉協議会ボランティア活動振興センター、財団法人東京メソニック協会、財団法人日本おもちゃ図書館財団などによる大きな支援の力が、おもちゃ図書館活動の推進の原動力となったのです。

## 5 おもちゃ図書館の役割

### 1) 遊びの楽しさが子どもの生活を豊かにし、QOLを高める

「遊び」はこどもの原点です。こどもの生活はそのまま「遊び」であり、「遊び」はこどもの生活そのものであると言えます。

障害のあるこどもは上手に遊べなかったり、人や物と関わるのが上手でなかったりするので、療育の場では「遊び」の指導が行なわれます。でもこれは、子どもにとっての本来の遊びではありません。遊びは自由で自発的な活動であり、その活動自体が目的なのです。遊びの第一の特徴は、他人から指示されるのではなく自発的であるということです。第二に、どのおもちゃで、どのように遊ぶかを子どもが自分で決める（自律的な活動）ことが大切なのです。最後に大切なのは、子ども自身が遊び（活動）の評価をするということです。「ああ楽しかった」という、子ども自身の満足感を持って終わるのが「遊び」なのです。

子どもが、10ピースのパズルを高く持ち上げて、ばらばらとピースをばらまく様子を想像して下さい。子どもは楽しそうにけらけら笑っています。これが遊びなのです。パズルを自分で（自発的に）選んで、ピースをばらまく（自律的活動）と、それが楽しくてたまらない（ああ楽しかったという満足感）。このような楽しい遊びを体験できるのがおもちゃ図書館なのです。そして、「わああ、楽しいねえ」とこどもの満足感や達成感に共鳴して遊びの楽しさを倍増させるのがボランティアの役割と言えます。こうして遊ぶうちに、この子がやがて、パズルをはめることを楽しむようになるのは言うまでもありません。

このように、“おもちゃで楽しく遊ぶ、しかも無条件に” “Play for Fun” がおもちゃ図書館なのです。そして、“ああ楽しかった、という満足感” は、遊びの





た。会員数は平成21年4月現在、約460館になりました。

全国的な組織作りとしては、社会福祉法人全国社会福祉協議会ボランティア活動振興センターの協力がありました。国際障害者年のノーマライゼーションの思想を広げるためにも、また、ただおもちゃを貸し出すおもちゃ図書館ではなく、ボランティアの市民運動としてわかりやすく「の」を入れて、思いやりと優しさを横溢する耳障りの温かさを感じさせる、おもちゃの図書館全国連絡会という名称にしたということです。さらに、「おもちゃによる障害児を中心とした子どもの遊びの図書館」「子どもたちと親など家族と、ボランティアとによるふれあいの図書館」を全国各地にひろげていきたい、との願いを「の」にこめて、なじみやすい日本語を用いておもちゃの図書館全国連絡会の名称が決定されたとのことです。

#### 4) どうして急に活動がひろまったの？

まず、当時は障害のある子ども達が楽しくおもちゃで遊ぶ仲間、機会と場所がなかったことがあげられます。当時は、障害のある子ども達が安心して遊べる場、保護者が気兼ねなくほっとできる場がほとんどありませんでした。また、障害のある子どもの子育ては、どうしても孤立しがちです。このように、障害のある子どもと親のニーズが大きかったことが、おもちゃ図書館が急速にひろがった第一の理由です。

第2の理由として、障害のある子どもの親と療育の専門家が、おもちゃ図書館活動の重要性に気付いた、と言うことがあげられます。ちょうどその頃は、障害のある子どもの早期療育の重要性が叫ばれ、通園施設などの療育の場が全国各地にどんどん作られていました。親ごさんも療育の専門家も、障害の早期発見・早期療育によって子ども達の発達をいかに促すか、ということに心を奪われがちでした。そこに登場したのがおもちゃ図書館でした。リハビリや訓練をするためにおもちゃを使うのではなく、楽しく自由におもちゃで遊ぶ機会と場所を提供するおもちゃ図書館活動は、障害のある子どもの生活の質（QOL）を高めます。おもちゃ図書館は、子ども達の情緒を養い、コミュニケーション機能を高め、心の豊かさを育てる楽しい遊びの場です。その存在の重要性に気付いて深く心を動かさ



結果得られる“遊びの産物”なのです。このようにしておもちゃ図書館は、子どもの豊かな心を育て、生活の質を高めているのです。

## 2) おもちゃ図書館は発達を促します

おもちゃ図書館で遊ぶ時、子ども達は「ああ楽しかった」と満足感を覚えます。でもそれだけではありません。気にいったおもちゃで楽しく遊ぶ時、子ども達はこれはなんだろう、これで楽しくあそんでみたい、どうやって遊ぶんだろう、こうすれば動く、動かせるんだ、ということから始まり、目で見て楽しみ、耳で音を聞き、手で感触を確かめ、さらには手や指を使っておもちゃを操作したり、身体全体を動かすことにつながります。好きなおもちゃで一心不乱に遊ぶ時、自然と集中時間も伸びて長時間遊び続けます。その結果、手や指の使い方が上手になり、形や色・大小の違いを学び、言葉の発達やコミュニケーション機能の発達が促されます。このように、子ども達はおもちゃ図書館で楽しく遊ぶうちに、自然に発達が促されていくのです。

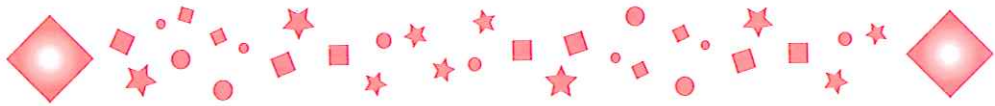
「ああ楽しかった」と言う喜びや満足感が“遊びの産物”だとすると、遊びの結果得られる「機能の発達」は、言わば“遊びの副産物”です。おもちゃ図書館には、“うれしいおまけ”がついてくるのです。なんと素晴らしいことでしょう。

## 3) おもちゃ図書館の家族支援

障害のある子どもも障害を別にすれば、それぞれの個性を有する一人の子どもです。でも障害のある子の育児を考える時、障害という特徴に対して、医学的・心理学的・教育的知識や技術、福祉的支援などが必要になります。この大変な子育てをしている親ごさん、特にお母さん達がホッと肩の力を抜き、心を開いて語り合える場を提供するのがおもちゃ図書館です。また、お母さん同士や育児経験の豊かなボランティア、専門的知識のあるボランティアさんから、いろいろな知識・情報を得ることも出来ます。このように、おもちゃ図書館は育児支援・家族支援の場でもあるのです。

障害のある子どもの兄弟姉妹にとっても、おもちゃ図書館は楽しい遊びの場です。きょうだい達は、家庭では障害のある子どもが優先されがちのため、寂しい





思いをしていることが多いのです。おもちゃ図書館では、幼いきょうだい達も何も我慢することなく、ボランティアさんや他の子どもと楽しく遊べます。

また最近では、障害のある子ども達だけでなく、障害のない子どもも遊びに来ます。近年、社会情勢が変化する中で、人と人の関係がうすくなり、核家族で孤立する親子・育児不安を持つ母親とその子ども達・遊びの機会に欠ける子ども達もおもちゃ図書館にたくさん遊びに来るようになりました。このようにおもちゃ図書館は障害のない子どもの育児支援・家族支援の場にもなっています。

#### 4) 障害のある子どものおもちゃの工夫

一般に良いおもちゃであれば、障害のある子どもにとっても良いおもちゃであると言えます。しかし、障害のある子ども達は手先が器用でなく、おもちゃを上手に操作することが出来にくいので、おもちゃ図書館では個々の子どもにあわせて様々な工夫をしています。

たとえば、指でスイッチをおせない子どもが電動おもちゃで遊べるように、音声でスイッチが入るおもちゃを用意する、BDアダプターを使って（例えばジェリービーンズスイッチ等）おもちゃを操作出来るようにする、等です。

また、パズルや型はめのつまみは子どもの指に合わせて小さく出来ているので、障害のある子どもがつまみやすいような工夫が必要です（ゴルフのピンを利用する等）。

更に、様々な工夫が出来る素材として布があります。布は衣類や寝具として常に一番身近に触れる、安全性の高い、暖かで柔らかい素材です。布には、ボタン・スナップ・ファスナー・紐・マジックテープ等を縫いつけることが出来るので、様々な工夫をすることが可能です。子ども達は、手作りの布の絵本やおもちゃで楽しく遊ぶうちに、ボタンはめ他いろいろな機能の発達が促されて行きます。おもちゃの図書館国際会議のペーパーセッション・ワークショップでの発表や展示、諸外国への寄贈等の機会を通して、日本の布の手作りおもちゃは国内外で大きな賞賛を浴びており、貴重な社会資源になっています。



## 6 おもちゃ図書館の活動のひろがり

おもちゃで遊ぶ、おもちゃの貸し出しをする、という基本的活動に加えて、おもちゃ図書館は過去30年の社会情勢の変化とその時々ニーズに合わせていろいろな活動を展開してきました。

### 1) レジャーライブラリー活動

おもちゃ図書館で楽しく遊びながら育った子ども達は、その成長に伴いおもちゃでの遊びから余暇活動・レジャーへと余暇の過ごし方も変わります。そのため、障害のある青年達のためのいろいろなとり組みが必要となってきます。おもちゃで遊ぶおもちゃ図書館に対して、障害のある青年達のための活動をレジャーライブラリーと言い、イギリスで発展しました。2007年実施のおもちゃ図書館実態調査によると、レジャーライブラリー活動の取り組みは、日本の約25%のおもちゃ図書館で行なわれているという結果が得られました。

レジャーライブラリーの活動内容としては、スポーツ・音楽活動・絵画・陶芸・料理・旅行・キャンプなどがあり、ハンドベルやマラソンに挑戦している青年たちもいます。

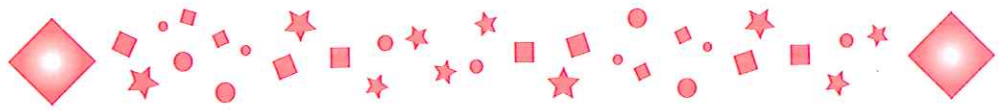
### 2) 移動おもちゃ図書館

病院・老人福祉センター・児童館・障害児通園施設・特別支援学校や特別支援学級など、地域の様々な施設におもちゃ持参で出向いて遊ぶ活動です。また、地域のイベントに参加して、おもちゃ図書館やおもちゃ広場等を開く活動も含まれています。

### 3) 出前おもちゃ図書館

おもちゃ図書館に来られない子ども達こそ一番おもちゃ図書館を必要としているのではないか、との考えのもとに、特に障害の重い子どもの家庭におもちゃを届ける活動です。





#### 4) おもちゃ病院とトイドクター

定年退職をしたシニアボランティアさん達が中心になっておもちゃの修理を行っています。壊れたおもちゃはおもちゃ病院に入院して、元気になって帰ってきます。2007年のおもちゃ図書館実態調査の結果では、おもちゃ病院を併設しているおもちゃ図書館は25%、地域のおもちゃ図書館を利用しているところが18%でした。近年各地でとり組まれるようになっており、リデュース・リユーズ・リサイクル運動の一環として行われている所もあります。

### 7 おもちゃ図書館による障害児の家族・地域支援システムの構築

障害のある子ども達の成長に伴うニーズの変化に合わせて、おもちゃ図書館を核に、その活動内容をさらに発展させて障害児の家族・地域支援システムの構築がなされています。

そのうち一位はレジャーライブラリーで、おもちゃ図書館らしく楽しい余暇活動を提供しています。次いで障害児学童・放課後クラブ、障害児通園施設、ショートステイ・レスパイトケア等、地域における障害児のニーズに応じて、新たな事業が立ち上げられています。これ等の活動を始めた理由として、“子どものニーズに応えるため”と“親のニーズに応えるため”が同率首位であったことは、おもちゃ図書館開設の理由とあいまって非常に興味深いところです。

### 8 おもちゃの図書館全国連絡会と国際会議

1987年カナダ・トロントで開催された第4回おもちゃの図書館国際会議以来、おもちゃの図書館全国連絡会は、3年毎に開かれる会議に毎回参加者を送って、ペーパーセッション・ワークショップ・ポスターセッション等で発表して来ました。世界の仲間たちと親しく交流し、日本のおもちゃ図書館活動について報告し、又世界各国の情報を得ることはとても有意義なことです。又、1999年、東京で開催した第8回おもちゃの図書館国際会議は大成功で、非常に高い評価をいただきました。

2004年韓国・ソウル、2007年マレーシア・クアラルンプールと、やはり3年に一度開かれているアジア会議も、近隣の国々と情報交換・国際交流をする良い機



会となっています。

そしてこれ等の会議への出席を通して、日本のおもちゃ図書館活動については、「障害児を中心とした活動であること」「ボランティアによる活動であること」「日本の布の手作りおもちゃは素晴らしい」の三点が世界によく知られるところとなっています。

## 9 おわりに

おもちゃ図書館について、特に新しくボランティアになられた方々に知っていただきたいことを述べました。

おもちゃ図書館は、その地域のニーズ、あるいはそのおもちゃ図書館を利用するお子さんとそのご家族のニーズに応える活動です。おもちゃで楽しく遊ぶ活動、ボランティアによる活動、そして障害のあるお子さんを中心にした活動であれば“それぞれの個性があるおもちゃ図書館でいい”とご理解いただけたならとてもうれしいです。

峯島 紀子 おもちゃの図書館全国連絡会 事務局世話人

- 参考文献 (1) 出会いのよろこび 全国社会福祉協議会 (昭和61年3月31日)
- (2) おもちゃと遊び“その理論と実際”おもちゃと遊び研究会編  
財団法人日本児童福祉協会 (1996年)
- (3) 上田陽子 トイライブラリーの発展過程と現代的課題 (2002年)  
横浜国立大学教育学研究科修士論文
- (4) 平成19年度 財団法人こども未来財団 児童関連サービス調査研究等事業報告書  
障害児における家族・地域システム構築に関する調査研究
- (5) 平成20年度 財団法人こども未来財団 児童関連サービス調査研究等事業報告書  
障害児における家族・地域支援システム構築に関する調査研究  
～おもちゃ図書館活動の福祉機能を最大限に活かすには～





## Q&A

# おもちゃ図書館を運営するのにどのような資金確保の方法がありますか？

おもちゃ図書館の設置主体・運営主体によって活動資金の確保の方法は異なりますが、各おもちゃ図書館では、さまざまな工夫をしながら資金の確保に努めています。

## 1. 補助金申請等

おもちゃの購入などには、まとまったお金が必要です。その時には、次の様に、補助金をもらう方法もあります。

〔1〕市区町村の社会福祉協議会に相談する。(助成団体を紹介してくれます)

〔2〕おもちゃの図書館全国連絡会に相談する。

(おもちゃの現物助成、又は購入資金の助成を申し込むのも一つの方法です。)

〔3〕その他 民間の助成団体に直接申請をする。

例えばローターリークラブ、ライオンズクラブ、地域の団体によるもの

## 2. バザー等への参加・開催

おもちゃ図書館が単独でバザーを開催できない場合は、地域で開催するバザーに参加する。

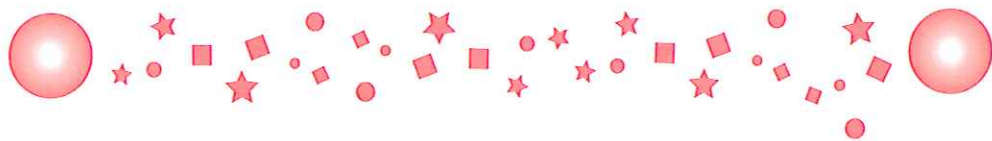
## 3. 賛助会員の募集

おもちゃ図書館の活動に関心を持つ人々を賛助会員として募集し、運営資金を集める事も一つの方法です。

## 4. 寄付金の募集

チャリティコンサート・チャリティダンスパーティーなどの開催  
スタンプ収集・ポイントレシート収集などによる寄付金

※おもちゃの図書館全国連絡会の会員のおもちゃ図書館は、原則として利用料は無料となります。



## トイ・ドクター リレートーク 「おもちゃも思い出も蘇らせます」

おもちゃの病院には可愛い依頼人のほかに大人の方が所有しているおもちゃの修理依頼で来院されることもあります。

高齢の男性が持って来られた古いオルゴールは病床にある奥様が好きだったものということで、優しい音を復活させて癒やしてあげたいという深い夫婦愛が感じられました。またある時は詰め物がはみ出した人形を大事そうに持って来られた女の方がいらっしゃいました。それはどこにでもありそうなぬいぐるみでしたが、その人形にはその方の大切な思い出が詰まっていることを伺わせるご様子でした。

こういうおもちゃを担当したドクターは何としても持ち主の思いを叶えてあげたいと頑張り、依頼者が笑顔で持ち帰られた時はドクター冥利に尽きる瞬間です。

茂原おもちゃの病院は月4回、市内の福祉センター、子どもセンター、市民センターなどで開院しています。どなたも来院歓迎です。おもちゃの持ち主の思い出を蘇らせようとドクター達がお待ちしています。

千葉県茂原市 茂原おもちゃ図書館附属おもちゃの病院 畑山重治

表紙の絵は澤佐景子さん（こばとおもちゃのとしょかん）

カット・裏表紙は箕田美子さん（こどもの城おもちゃ図書館マックロー）



## 本の紹介

# 自閉症の僕が跳びはねる理由 会話のできない中学生がつづる内なる心

巻末：短編小説「側にいるから」  
著者 東田 直樹  
(株) エスコアール 出版部

「自閉症」という言葉はよくお聞きになると思いますが、皆さんは「自閉症」にどのような子ども達をイメージされますか。「お話ができない子ども」「人に関心がない、落ち着きがなく、動きまわる」などとイメージしてはいないでしょうか。

私が出会ったある母親は子どもが2歳頃「言葉を理解してない」「言葉をまったく話さない」「語彙が少ない」など同年齢児と比べ言葉の問題で専門医を訪れ自閉症と診断されました。乳児期の様子は手のかからないおとなしい子、人の顔を見ても微笑まない、あやされても喜びを表さないなどの特徴を母親は話して下さいました。

この本は、自閉症の人の心の中を当事者である著者なりに「…はなぜです？」と、表現できない自分の気持ちを説明することで、少しでも自閉症を理解していただく為の手助けになる事ができたらと書かれた本です。

### 第一章 言葉について (口から出てくる不思議な音)

最後にちょっと言わせて「足りない言葉」僕らの言葉はミラクルだね。

### 第二章 対人関係について (コミュニケーションとりたいけれど…)

自閉症が治る薬が開発されたとしてもこのままの僕を選ぶかも…なぜならば、一言でいうと「障害がある無しにかかわらず人は努力しなければいけないし、努力の結果幸せになれることが分かったからです。」

### 第三章 感覚の違いについて (ちょっと不思議な感じ方。なにが違うの?)

\*ちょっと言わせて「夏の気分」僕達はいつもそわそわしている、どんな時も急いでいる時間の流れに乗れない僕たちはいつも不安なのです。

### 第四章 興味・関心について (好き嫌いってあるのかな?)

\*ちょっと言わせて「大仏様」誰でも感動する心を持っている

### 第五章 活動について (どうしてそんなことするの?)

外見上人の持っているものは全て持っているのにも拘わらず、皆とは何もかも違います。まるで太古の昔からタイムスリップしてきたような人間です。僕達が存在するおかげで皆さんが、地球にとっての何かを思い出してくれたらうれしい。

最後にとても印象に残る言葉があります。「どんなに苦しくても悲しくても、希望があれば頑張れます。この世界が希望の光でいっぱいになれば、僕たちの未来はみんなの未来とつながると思います。」この本は私達の忘れていた何かを考えさせられます。純粋な心、やさしさに教えられます。巻末：短編小説「側にいるから」もぜひお読みになって下さい。





育成ハンドブック No.67

発行 財団法人 日本児童福祉協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10-503

編集 おもちゃの図書館全国連絡会

〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-6 ギンザエイトビル3F

電話 03 (5565) 0823 FAX 03 (5565) 0824

E-mail : renrakukai@toylib.or.jp URL : <http://www.toylib.or.jp>

※お問合せはおもちゃの図書館全国連絡会へお願いします。